

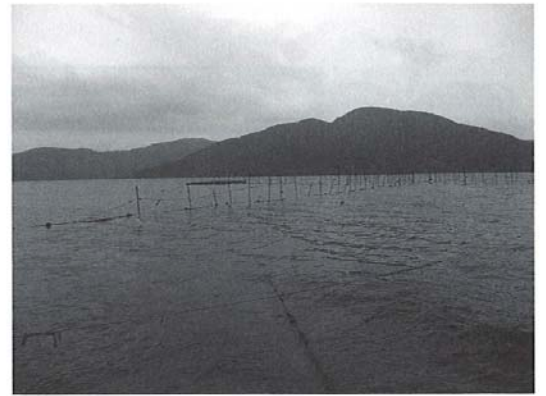
## 習性の利用——魷 (えり)

夏の琵琶湖、涼しそうですね。なかでも奥琵琶湖は、筆者がお気に入りの、自然豊かな場所。年に1～2回は訪れます。静かな湖面を眺めていると、心が落ち着きます。今回は海津大崎にテラスカフェを見つけ、日本海から琵琶湖を吹き抜けるそよ風を浴び、夜には蛍を楽しみました。

さて、琵琶湖では今も漁業が営まれています。防波堤のある漁港もあります。漁協もあります（ついですが、人が住む沖島という島もあります）。その漁法が魷（えり）漁。

小型の定置網漁です。ワタリといわれる障害物を湖岸に設置し、その先に扁平な二等辺三角形の仕掛け、底辺の先にツボがあります。春から夏にかけて、産卵のために湖岸に押し寄せる魚が、障害物に沿って泳いでいるうちにツボにはまる。早朝にツボの網をあげる。魚の習性を利用して集ませ、少ないエネルギーでたくさんの漁獲を得る。知恵のこもった待ちの漁法です。琵琶湖には120ほどの魷が設置されているそうです。

魷をみながら2つのことを思い出しました。1つは、某タクシー会社のタクシー乗場。安価な価格を提示して、それに引きつけられた顧客が自ら乗場（ツボ）に集まり、ド



▲琵琶湖の魷漁

ライバーが乗客を乗せる（網を引き上げる）。それにより実車率を高める。流して顧客を捜すのではなく、顧客が集まるのを待つ、価格で動く筆者の習性を上手く活用されています。

もう1つは、ナメクジの駆除法。ビールを入れた器が効果的です。ビールが大好きなナメクジは、ビール浴に集まり、溺死します（飲み逃げするナメクジもいるという説もあります）。ナメクジの居場所を探して駆除するのは大変ですが、自ら集まって溺死してくれば作業は楽です。わが菜園ではイチゴの季節になるとビールがお出ましです。

われわれが人に働きかけるとき、相手を説得しようと考えることが多いと思います。つまり、魚を追いかけがちです。しかし、目的は、相手がこちらの思い描く動きをしてくれること。であれば、相手がそう動かざるを得ないような障害物（ガイド）を設置することでも働きかけは可能です。楽に人を動かすためには、人の習性を十分に活用した「魷作戦」を考えてみるのもよいのでは。

（MBO実践支援センター代表）

